

活力と誇りあふれるまち

—— 地域おこし協力隊インタビュー ——



令和8年7月着任

佐々木 遥香 さん

神奈川県小田原市から常陸大宮市の協力隊として着任した佐々木さん。20歳の若さで大きな決断をした思いや、常陸大宮市への印象を伺いました。

祖父母の手伝いがきっかけで農業の道を志す

幼少期、農業を営む祖父母のもとで経験したブルーベリー摘みの楽しさがきっかけで、農業へ興味をもった佐々木さん。農業大学校に進学し、2年間果樹を専攻しました。当初は親族の農園を継ぐことも考えていましたが、状況の変

「農業大国」の茨城で就農をゴールに

化により自らで就農への道を切り拓くことを決意したといいます。「農業法人に就職すると将来が限られるのではと考えました。多様な農業を学ぶために協力隊の道を選びました」と話します。

**様々な農業を学べる
常陸大宮市の協力隊に**

数ある自治体の中から本市を選んだ理由は、支援体制の充実でした。「一つの場所だけでなく、自分で研修先を選んで色々な農家さんを見られる条件に魅力を感じました。さらに、就農までのルートがしっかりしていたことが応募の決め手になりました」といいます。

**広がる田畑の新鮮さと
便利な市街地が魅力的**

都市部から移住してきた佐々木さんにとって、常陸大宮市の風景

「地域おこし協力隊」として、市外から、市や県北部の振興のために拠点を移した各隊員。常陸大宮市を選んだ背景には、それぞれのストーリーや感じた魅力があるはず。そんな協力隊の裏側や各隊員の活動に迫るとともに、それぞれが感じた常陸大宮市の魅力をご紹介します。

は新鮮だったといいます。「田んぼが本当に広くて、神奈川ではなかなか見られないので、すごく新鮮でした」と語ります。

また、実際に住んでみての感想を聞くと、「市街地では日用品がそろっているので今のところ不便は感じていないです」と話してくれました。

**農業従事者として
この地に馴染んでいきたい**

着任の翌日から市内の果樹農家のもとで研修に励んでいる佐々木さん。「まずはこの地域に馴染むことが一番だと考えています。そして、地域おこし協力隊として、少しずつ力になれることを探したいです」と語ります。

2年間の任期を通じて地域の農業課題に向き合い、退任後もこの地域の一員として農業を続けたいと展望を語ってくれました。

地域おこし協力隊とは

人口減少や高齢化などの課題を抱える地域が人材を受け入れ、地域活性化に取り組む制度です。常陸大宮市では市の課題解決に特化した隊員が、茨城県北地域では起業・複業型の協力隊として、ビジネスなどで地域振興を行う隊員が活躍しています。

常陸大宮市地域おこし協力隊
最新の活動は各 SNS で発信中！



▲ Instagram



▲ Facebook



令和7年4月着任

中村 保 さん

奥久慈漆を振興する市の地域おこし協力隊に着任して1年が経つ中村さん。これまで、夏場はウルシ林を育てるための草刈り、冬場は剪定や伐採、苗木の出荷準備などに汗を流しました。「初めて自ら採取した漆を漆芸家に見ていただき、『漆として使える』と言ってくれました。責任を持って採取した成果が形になり、安心しました」と中村さんは振り返ります。また、並行して、市内の漆芸家を手伝いながら、漆塗りの技術、専用の道具の作成、刃物の研ぎ方なども学んできました。



令和7年4月着任

菅尾 浩美 さん

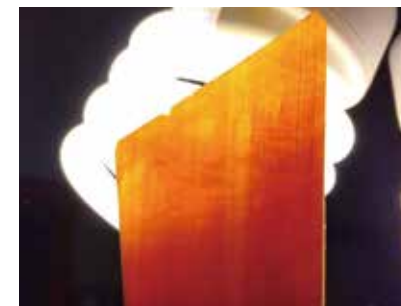
奥久慈漆の振興をミッションとして協力隊に着任した菅尾さん。これまで、地元の人の助言を仰ぎながら、ウルシの苗木生産、ウルシ林の管理、漆かき、漆芸家の作業補助などを行ってきました。7月は漆かきのシーズン真っ只中で、朝5時ごろから行っているそう。「毎日のようにウルシの木に向き合い、木の変化が少しずつ分かるようになってきました」と話します。

常陸大宮市での生活も1年を超え、スーパーが多く買い物が便利な一方、少し行けば美しいウルシ林や

漆芸家の制作を支える基礎的な技術を習得したい

常陸大宮市で1年生活してみて中村さんは、近くに必要な店がそろっており、住みやすさを感じていっています。「便利ながらも人混みもそこまでなく、穏やかな暮らしができるまちだと感じています」と話します。

2年目以降は、奥久慈漆の生産管



▲ヘラ作りの様子。道具を作る技術も漆芸家から学んでいるそう。ヘラ作りでは均一に力が入るよう光を当てて厚みを確かめます。

理に加え、漆器制作の基礎的な技術の習得に重点を置いていきたいという中村さん。「現在、「下地」や「中塗り」の作業を手伝わせてもらっています。まずは、この作業を作家の制作を支える確かな「下請け」として請け負えるように技術を磨いていきたいです」と話してくれました。



▲市内の漆芸家 室瀬祐さんの下で、作品の滑らかな輝きに直結するという下地塗りの技術を学んでいます。

奥久慈漆の産地の技術をもっと多く学びたい

自然があるというバランスの良さに満足しているといいます。自然豊かでありつつもウルシにとって害のある鹿や熊などの心配が少ない点も、活動しやすいと話します。

今後は、協力隊の活動期間中に、生産量全国第2位の奥久慈漆の産地の技術をできるだけ多く学んでいき

たいという菅尾さん。「漆の品質や漆かきの工程を考えた育苗をしたいと思っています。『漆かきや漆芸ができる育苗家』を目指して日々励んでいきたいです」と話します。さらに「うるしのある暮らし」の魅力を発信しながら多くの人を巻き込んでいきたいと語ってくれました。



▲ SNS で「整然とした美しい漆林」とコメントがあったウルシ林。縦・横・斜めに木がそろった林はなかなかないといいます。



▲全国に出荷されるウルシ苗の畑。「日々成長していく様子を見るのが楽しみです」と菅尾さんは話します。



茨城県北起業型地域おこし協力隊
令和6年10月着任・2年目

後藤 はるか さん



後藤さん HP



民泊 HP

魅力を磨き上げる 地域密着のデザイナーに

東京でデザイナーとして活躍していた後藤さん。先に空き家になっていた実家へとUターンしていた夫と生活をともにするため移住しました。協力隊としては、前職の経験を生かして、デザイナーとして活動を行っています。後藤さんは「デザインがこの地域に必要とされている仕事なんだとすごく感じています」といいます。また、仕事の傍ら、空き家をDIYで再生させた民泊を夫とともに運営し、地域に深く根ざした活動を続けています。

後藤さんが活動の中で感じたのは、この地域には美味しいものや地域ならではの魅力が豊富にある一方で、それが十分に知られていないということでした。後藤さんは「特産品や手土産をデザインの力で『売れる商品』になるように磨き上げることが、私にできることだと感じています」と話しました。



▲常陸大宮市認証制度
ロゴデザイン



▲「おとなの奥久慈茶アイス」
パッケージデザイン

温かさに支えられながら 挑戦する姿を見せ続けたい

大学時代の友人との縁で常陸大宮市にやってきた小島さん。人と人との繋がりを創出する場所を作りたいと活動してきました。この春オープンさせたカフェ「HANDs」はすでに多くのリピーターを抱える店となっています。「開店にあたって、関わってくれた方々はみなさん良い人で、改めて常陸大宮市民の温かさや可能性を感じました」と話します。元教員ということもあり、閉店した15時以降は子どもたちのフリースペースとして開放しています。

「ここは、まちを盛り上げようという熱意ある人にあふれていると感じています。もっとワクワクできるまちに、特に若者が挑戦しやすいまちにしたいと考えています」と話します。そのために、自ら行動し続ける姿を見せていくことで、このまちで挑戦できることを伝えたいと話してくれました。



茨城県北起業型地域おこし協力隊
令和7年4月着任・2年目

小島 英久 さん

COFFEE&PLACE HANDs

陽抽ヶ台町 864-1

時 7:00~15:00

休 定火・水曜日



Instagram

築150年の古民家を再生し 地域の魅力を伝えたい

都内での空き家活用経験を活かし、祖父母が残した築150年の古民家を宿泊施設「kominkaしなのや」として再生させることを決意した鈴木さん。始めは家族で黙々と作業を進めていましたが、県北の協力隊の存在を知り、応募を決めました。「協力隊の先輩や市内の創業者の皆さんと繋がり、チャレンジする仲間がいる心強さを感じています」と話します。

現在は、令和9年4月のオープンを目指して、改装を進めています。「常

陸大宮市には西の内紙や木材など内装に使える素材が多いと感じました。この土地の素材を生かした空間を作っていきたいです」と話します。開業後は、農村文化やものづくりに触れられる交流拠点として、地域住民と連携したそば打ちなど、この地ならではの体験も提供したいと話してくれました。



茨城県北起業型地域おこし協力隊
令和8年4月着任・1年目

鈴木 怜寿 さん



Instagram



YouTube

教えて！協力隊の 「コレ、推しです！」



市協力隊 佐々木さんの推し
工夫を凝らしたメニューも！
ハイレベルなそば屋さん

もともとそばが好きなのですが、常陸大宮市内のそば屋さんのレベルの高さに驚きました。そばそのものもとても美味しいのですが、そばせんべいやそばのシフォンケーキなどといった、各店の工夫を凝らしたメニューも美味しかったです。協力隊の面接の時に訪れたそば屋さんに居合わせたお客さんの優しさも印象に残っています。移住して間もないので、今後、市内のそば屋さんを巡ってみたいです。



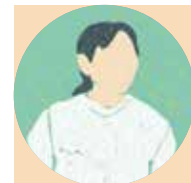
市協力隊 中村さんの推し
江戸時代から続く
西の内紙や堰

江戸時代に盛んに作られ、今も地域の伝統として受け継がれている「西の内紙」に魅力を感じました。活動中、原料の楮こうぞの処理を手伝いながら、西の内紙の歴史を聞く機会がありました。話を聞いて、私が携わる漆以外にも、貴重な技術が残るまちだと感じました。また、辰ノ口や岩崎などの「堰」が、江戸時代に造られた姿のまま、今も農業用水として機能し、農家を支えていることにも感動しました。



市協力隊 菅尾さんの推し
日本文化を支える
奥久慈漆に携わる人々

苗木を育て、漆をかき、漆芸・漆器に仕上げるまでが地域の中で一つの産業として完結しています。これは、奥久慈漆に携わる人々が互いにできることを協力し合って、地域全体で守り育ててきたからこそその環境です。そして、訪れる人を快く受け入れる懐の深さもあります。これらの魅力に、市や国を越えて、多くのファンがついています。この環境を守ってきた人々こそ、このまちのが誇るべき魅力だと思っています。



県協力隊 後藤さんの推し
味やおいしさに感動！
身近にあふれる新鮮な野菜

都心では野菜の値段が高く、サイズも小さいことがしばしばだったので、市産の野菜の美味しさと安さに驚きました。道の駅常陸大宮〜かわプラザ〜には珍しい洋野菜なども豊富で、今では東京の友人へのお土産も野菜が定番です。売り場で、市産のシイタケの大きさと厚みに驚き、お土産として渡したところ、私と同じように感動していたことが印象的でした。新鮮な野菜を味わえるのはこのまちならではの贅沢です。



県協力隊 小島さんの推し
奥久慈いちごの甘さと
みずみずしさに感動！

移住してきてから、様々な地元産の食材を味わってきましたが、中でも感動したのが「奥久慈いちご」です。初めて食べたときに「こんなに甘くてみずみずしいいちごがあるのか！」と衝撃を受けました。品種や農園も多いので、他の人と「推しいちご」を話せるもの楽しいです。ほどよい酸味があるいちごが好きな私は「おいこベリー」が好み。妻は「いばらキッス」と常陸大宮市のローカル品種「京虹きょうこう」推しです。



県協力隊 鈴木さんの推し
庭でバーベキューなどが
気軽にできる環境

首都圏で子育てしていた私にとって、家族でわいわいバーベキューをしたり、子どもが自由に土や水に触れて遊べる庭があることが魅力的。近所でもバーベキューをしている様子が見受けられ、周囲の寛容さも感じています。これは住宅が密な首都圏ではなかなか難しいことです。ほかに、虫捕りや収穫、夜の花火など、特別な場所へ行かなくても、子どもとともに豊かな日常を過ごしています。